

めざす子ども像

『自らの街に誇りをもって、自らの街のことを語れる子ども』

取組目標

～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～

今年度の取組紹介

【図書ボランティア活動】

限られた時間の中ではありましたが、本の読み聞かせや英語カードの作成など幅広い活動を展開しました。

【広報紙「京チユン通信」(2回/年 発行)】

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回の発行に縮小しました。

地域で決める学校予算事業や放課後子ども教室推進事業の内容を多くのひとに知ってもらい理解してもらうための「京チユン通信」は多くのコーディネーターが関わって写真や原稿を準備して作り上げています。



今年度のまとめ

- ・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。
- ・「京チユン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。
- ・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取り組みの方法を模索しました。

来年度に向けて

- ・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進していきます。
- ・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいと思います。
- ・「史跡散策」「授業支援」「京チユン通信の発行」などの活動を地道に取り組んでいきます。そして、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面に必要な支援ができる組織をめざします。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

学校を美しく 心を豊かに 挨拶が響き合い
互いの思いを語り合える学校に

【今年度の取組紹介】

○今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域の方々と協働して行う活動は大幅に中止せざるを得ませんでした。

・例年実施しているが、今年度中止した活動等

「京中オープンスクール」、「国際交流事業」「ふれあい作業」「花いっぱい運動」

○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。

地域の皆さんが温かく見守り、時には一緒に活動して下さることで、生徒の心の中に学校愛や地域愛が生まれつつあるように思えます。挨拶がしっかりできる生徒が多くなり、朝から元気な声が響いています。

【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○今年度は限定的な取組が多かった中、各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫を行うとともに、地域の方々が参加してよかったと思っていただける活動方法をさらに模索していきたいと思います。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを誇れる子ども

取組目標

命こそ宝、地域が宝。コロナに負けない宝を活かそう！

【今年度の取組紹介】

- ・未曾有の新型コロナウイルス感染対応で、年度当初から2か月も学校休校を余儀なくされた1年間でした。その中で、感染拡大予防措置を取りながら、ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動の「屋台骨」を担ってくださいました。

① 図書ボランティア（図書ボラ）さん方は、マスク着用の徹底に手の消毒、子ども達との距離を保ちつつ図書環境の整備に、司書の服部さんと本選び等に、ご尽力いただきました。

② 家庭科実習ボランティアさんも感染対策を施しながら「調理」「ミシン掛け」の実習をサポートしていただきました。

コロナ禍においても、自分達の勉強、学習のために感染対策を講じながら、献身的にボランティア活動をしてくださる姿に全教職員が、心温まりました。創立50周年の年度にふさわしく誇らしい地域の人材と確信しました。『地域が宝、地域の宝、わがふるさと六条小学校』そのままでした。



【今年度のまとめ】

- ・前述の通り、このコロナ禍においても「何とか子ども達の安心安全な学習のために」という意気込みが強く感じられた一年でした。その気持ちが子ども達に伝わり、実習や調べ学習の中で無くてはならない存在を確立されました。例えば、ミシンを使った家庭科学習では、機械操作が分かりにくい時に、リアルタイムで聞くことができるありがたさを教員も子ども達も実感し、心底ありがたく思えました。

また、創立50周年記念事業とコラボした「第2図書室の整備」作業では、本物の木材加工の書架に移し替える大移動を、生き生きと朗らかに黙々と続けられた姿には、六条校区の皆さんのある種『凄さ』を感じずにはいられませんでした。

【来年度に向けて】

- ・ホームページで毎日のように活動の中身を紹介することで、学校に来れなくとも居ながらに学校でのボランティアさん方の子ども達へのかかわりが感じ取れたと思われます。来年度もコロナ禍で「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきたいです。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、自らのまちを語れる子ども

取組目標

ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～

【今年度の取組紹介】

今年度はコロナの影響で、計画をしていた行事を大幅に見直すこととなりました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「ふれあいの日の餅つき」「とんどの集い」などの土曜日活動は中止となりました。例年、地域の方と昔からの伝統行事を体験するだけでなく、地域の方とのふれあいを楽しむ良い機会を失うこととなりました。また、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、平和学習や防災学習、薬物乱用防止教室、などもコロナの影響で開催を見合わせる形となりました。

そのような中で地域の方による見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動等の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作っていただき、読書をするのが楽しいと感じる子どもが増えました。



【今年度のまとめ】

コロナの影響により、交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域CN中心に見守り活動や学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。「豊かな心・人間関係力の育成」を目指し、地域の方をゲストティーチャーとして招き、キャリア教育の視点から様々な学習場面で体験的な活動を展開しました。こうした活動や登下校の見守り活動を通して、地域の方とのコミュニケーションをとる機会が多くなり、地域・学校・家庭が三位一体となって子どもの成長を見守っています。

【来年度に向けて】

新しい学校様式の一つとして、コロナ禍での地域の方との交流の仕方を模索し、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備、子どもの見守り等を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに新たな人材発掘をしていきます。

めざす子ども像

**『自らまちに誇りをもって、
自らのまちのことを語れる子ども』**

取組目標

**「こころとからだで感じられるこども」
～おもしろそう やってみたい できた喜び～****【今年度の取組紹介】**

- 長年継続して活動している「菜の花プロジェクト」は、地域の方にお手伝いをしてもらいながら6月の「種落とし」からスタートしました。春の臨時休園の影響で、4歳児は入園式で満開の菜の花畑を1度見ただけ、5歳児については去年の事を思い出したり写真で見たりしただけの「菜の花」でしたが、乾燥させたサヤを踏んだり叩いたりして種おとしをしました。10月には「唐箕（とうみ）」を使ってゴミを飛ばし、搾油器（さくゆき）で菜種油と油かす搾りを体験しました。ニョロニョロ出てくる油かすにびっくりしていた子ども達。温かくて青のりみたいな香りがしていた搾りたての油かすは、来年の菜の花畑の準備として畑に蒔きました。



11月に薬師寺と唐招提寺に絞った油を灯明として奉納し、僧侶の方々に「大切に使います」と言ってもらったことは、子ども達の自信につながる心に残る経験になったと思っています。

- 親子で和太鼓の演奏を聞かせていただきました。子ども達が知っている曲も和太鼓の迫力満点の音色とからだに感じる振動で全然違ったものを感じたようです。

「自分たちもしてみたい」という熱い思いから発表会では何度も練習し、かっこいい和太鼓の演奏を披露してくれました。地域の方から、「感動で涙が出そうになった」とお言葉をいただきました。

**【今年度のまとめ】**

「菜の花プロジェクト」は新型コロナウイルス拡大防止の観点から縮小などの影響が出ましたが、六条幼稚園らしい学びとして地域の方と一緒に継続的に取り組むことができました。地域の方や、NPO法人宙塾、ナルクの方々にゴミを出さない自然の循環の仕組みを教えてくださいましたので子ども達は「自然環境」のことや「つながる」ことを知り、好奇心や達成感を味わうことができました。地域にある薬師寺や唐招提寺を身近に感じ、守っていこうという気持ちの礎になったように思います。また、子どもの心が揺さぶられた経験が、意欲や思考力へ繋がっていきました。

【来年度に向けて】

新しい生活様式を取り入れての活動の中ではありますが、感動することや友だちと一緒に考え表現する楽しさを存分に味わってほしいと考えます。園の行事や子どもの様子をホームページやブログ等で発信して地域の中の幼稚園として地域の方々に見守っていただきながら活動していきたいと考えています。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども

取 組 目 標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。

【今年度の取組紹介】

『お話ひろば事業より』

「お話ひろば」では、感染防止の観点より絵本の読み聞かせの実施回数は減らすことになりましたが、子どもたちの絵本への興味や関心が広がっていくことができるように、小学校の図書ボランティアをされている地域コーディネーターの方に協力をしていただき、絵本コーナーの環境整備を実施しました。園保護者にも協力していただいて一緒に面展台を作成し、表紙が見える状態で絵本を展示することで、子どもたちはいろいろな絵本を手に取り、今まで知らなかった絵本に出会う機会が増えました。また、絵本の補修方法やブックカーの使い方等を教えていただいていることで、絵本の管理もいきなり、絵本コーナーの充実へと繋がっています。



『日本の食・文化に触れる会事業より』

バス等の公共交通機関を使つての遠出が難しい中、園外保育で小学校や中学校、唐招提寺等へ出かけ、自分が住んでいる地域を知り、関心をもつ機会を取り入れました。地域コーディネーターの方が安全面に配慮し、子どもたちに声をかけながら引率していただいていることで、安心して出かけることができました。唐招提寺では、仏様についての話を聞いたり、子ども達が不思議と感じたことに答えていただいたりすることで、自分たちの住んでいる地域に世界遺産があることを知り、大切にしていきたいという思いへと繋がりました。また、小学校や中学校の施設で過ごす時間をいただいたり、出迎えて下さる校長先生や教頭先生と挨拶をしたり話を聞いたりできたことは、子どもたちにとって小学校、中学校への期待や憧れへの気持ちをもち、園生活をより充実していく姿へと繋がりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍の中で、事業の取り組み方について様々な制限がありましたが、関係者の方々には理解をいただき、地域の方々やボランティアの方々の協力や繋がり、暖かな見守りなどを感じることができました。子どもたち保護者共に、自分たちの為に関わっていただいている存在を知り、感謝の気持ちや思いやりの気持ちへと繋がっています。

【来年度に向けて】

地域の方や保護者も園児の成長を感じ、高い評価と継続、再開を望む声が届いています。感染防止の観点での取り組み方を考えながら地域の方との打ち合わせ等を丁寧に行い、安心安全に実施していきたいと思えます。